

食の安全・安心に係る県民アンケート調査結果

和歌山県環境生活部県民局 食品・生活衛生課

1 調査の目的

「食」は生命の根源であり、人間の健康の維持に欠かすことのできないものです。しかし近年、ユッケや浅漬けによる集団食中毒事件や原子力発電所の事故に伴う放射性物質による汚染など、「食」の安全を揺るがす事象が起こっております。このような中、県民の皆さまが、「食」についてどのような意識をお持ちなのかを把握し、今後の施策に反映させていくことを目的としてアンケート調査を実施しました。なお、同様の調査は3年ごとに実施しています（今回は4回目）。

2 調査期間

平成24年10月28日～平成24年12月14日

3 調査項目の概要

- | | |
|--------------------------------|----------|
| (1) 食品に対する不安の有無とその要因 | <問1~問5> |
| (2) HACCPについて | <問6> |
| (3) 生食用食肉(牛肉)の基準について | <問7> |
| (4) 食品中の放射性物質に関する県の取組について | <問8> |
| (5) いわゆる健康食品に対する考え方 | <問9> |
| (6) 食品検査結果のホームページでの公表について | <問10> |
| (7) 食品表示について | <問11~13> |
| (8) 食品の安全性に関する情報の入手方法 | <問14> |
| (9) 食品の安全性に関する基礎知識及び身につけたい知識 | <問15~16> |
| (10) 地産地消について | <問17~18> |
| (11) 認定・認証制度について | <問19~20> |
| (12) 食品の安全・安心確保のために重要な県の取組 | <問21> |

4 調査の概要

(1) 調査対象者・調査方法・回答者数

調査対象者：日常的に食品を購入されている県民の方

調査方法：①わかやま食の安全サポーター*等を調査員として、居住地域や職場などにおいてアンケート用紙の配付・回収をお願いしました。

②10月28日和歌山市で開催された「わかやま食と健康フェア」の来場者にアンケートに答えていただきました。

回答者数：1,090名

*県民の食への関心を高め、食の安全や食生活の改善に関する知識等の普及を図り、消費者の自立を支援していただくために募集した方々。

(2) 調査結果の見方

ア. 回答比率(%)は小数点以下第2位を四捨五入したため、個々の比率の合計は、100%にならないことがあります。

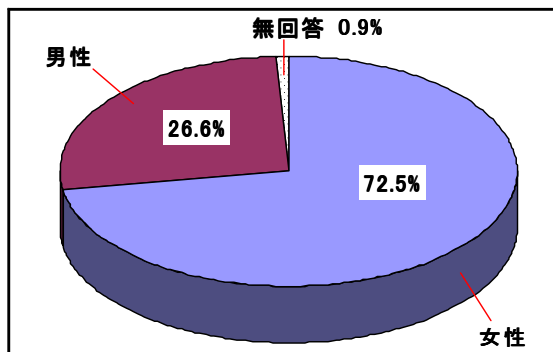
イ. グラフの中で「n」とあるのは、その質問の回答者の総数を示しています。

ウ. 複数回答の質問については、その回答比率の合計が100%を超える場合があります。

○調査対象者の概要 (n=1,090)

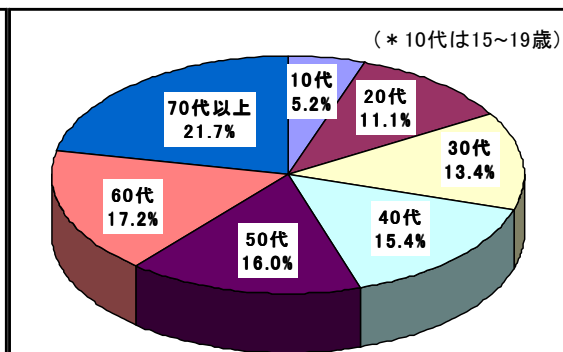
A. 男女構成

女性：72.5% (790人)
 男性：26.6% (290人)
 無回答：0.9% (10人)



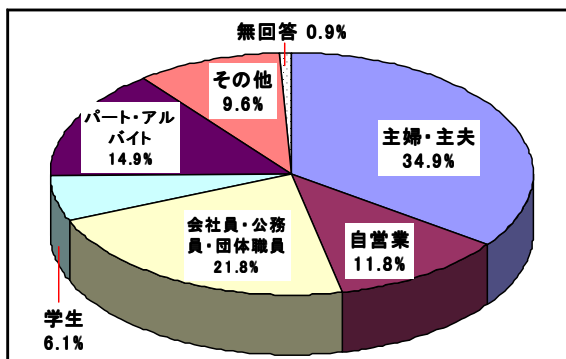
B. 年齢構成

10代*：5.2% (57人) 20代：11.1% (121人)
 30代：13.4% (146人) 40代：15.4% (168人)
 50代：16.0% (174人) 60代：17.2% (187人)
 70代以上：21.7% (237人)



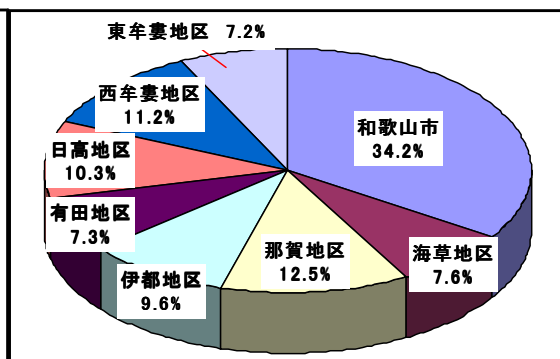
C. 職業別構成

主婦・主夫：34.9% (380人)
 自営業：11.8% (129人)
 会社員・公務員・団体職員：21.8% (238人)
 学生：6.1% (66人)
 パート・アルバイト：14.9% (162人)
 その他：9.6% (105人)
 無回答：0.9% (10人)



D. 地域別構成

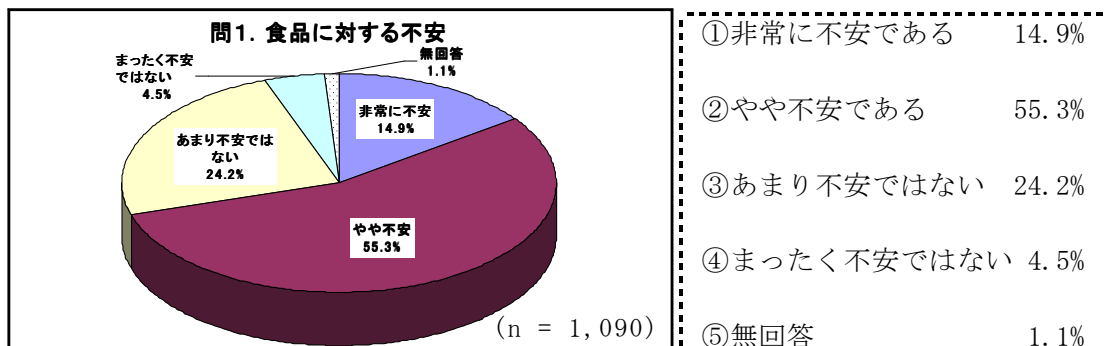
和歌山市：34.2% (373人)
 海草地区：7.6% (83人)
 那賀地区：12.5% (136人)
 伊都地区：9.6% (105人)
 有田地区：7.3% (80人)
 日高地区：10.3% (112人)
 西牟婁地区：11.2% (122人)
 東牟婁地区：7.2% (79人)



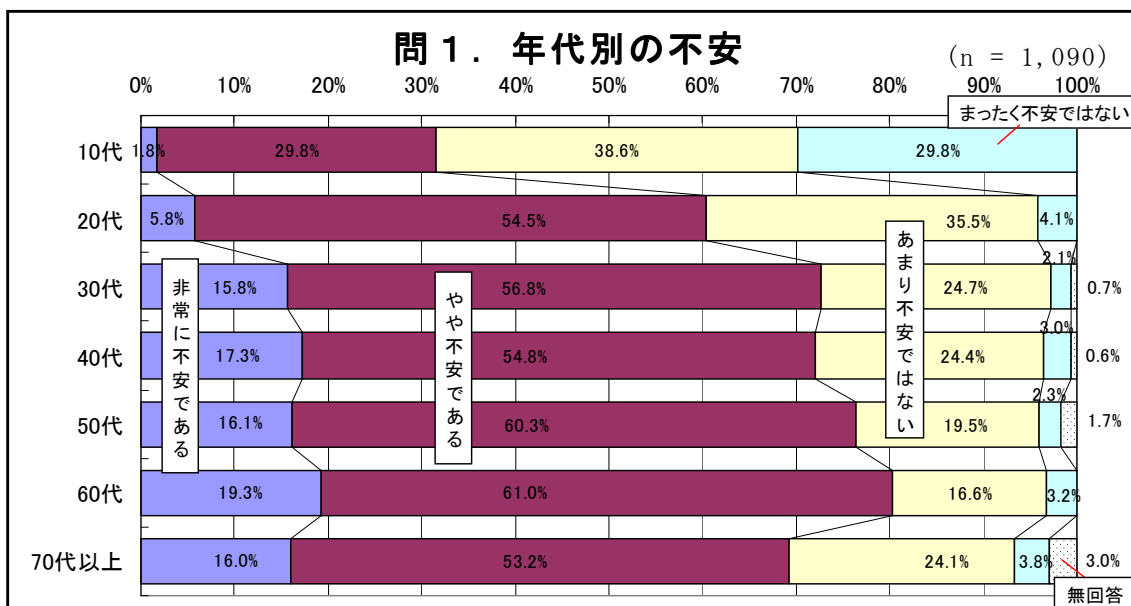
5 調査結果

(1) 食品に対する不安の有無とその要因

問1. 食品の安全性に不安を感じていますか？（1つ選択）



食品の安全性に不安を感じているかを聞いたところ、「非常に不安である」と答えた人が14.9%、「やや不安である」と答えた人が55.3%となり、2つを合わせると70.2%の人が「不安である」と答えています。なお、前回調査の「非常に不安である」と「やや不安である」を合わせた割合78.4%と比べると、8.2ポイント減少しています。

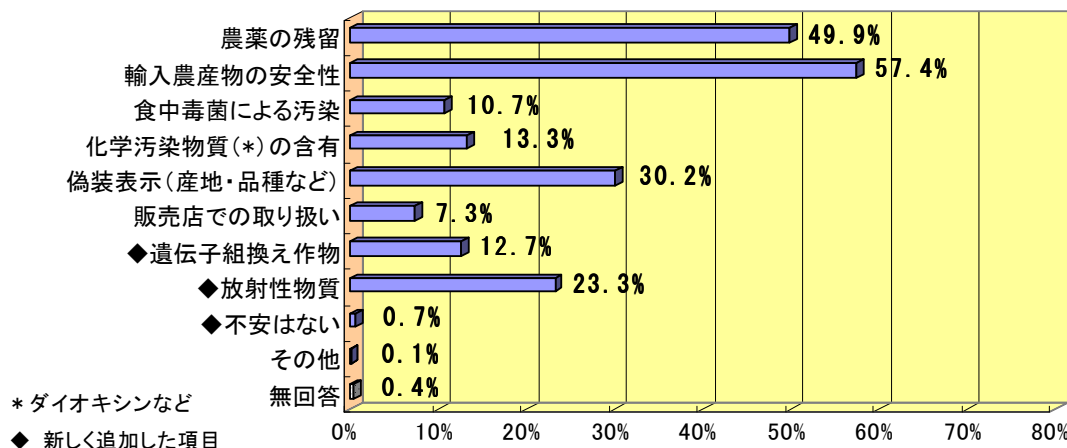


また、「不安である」と答えた人の割合を年代別にみたところ、
 10代：31.6% 20代：60.3% 30代：72.6% 40代：72.1%
 50代：76.4% 60代：80.3% 70代以上：69.2%
 となり、10代は「不安である」とする人の割合が他の年代に比べ特に低く、60代まで年代が上がるにつれ、その割合は増加傾向にあります。（上表参照）

問2. 問1で「①非常に不安である」・「②やや不安である」と答えた方で、農産物（生鮮野菜・果物・米など）を購入する際次にあげる項目で特に不安を感じているものはどれですか？（2つ以内選択）

問2. 農産物における不安要因

(n =765)



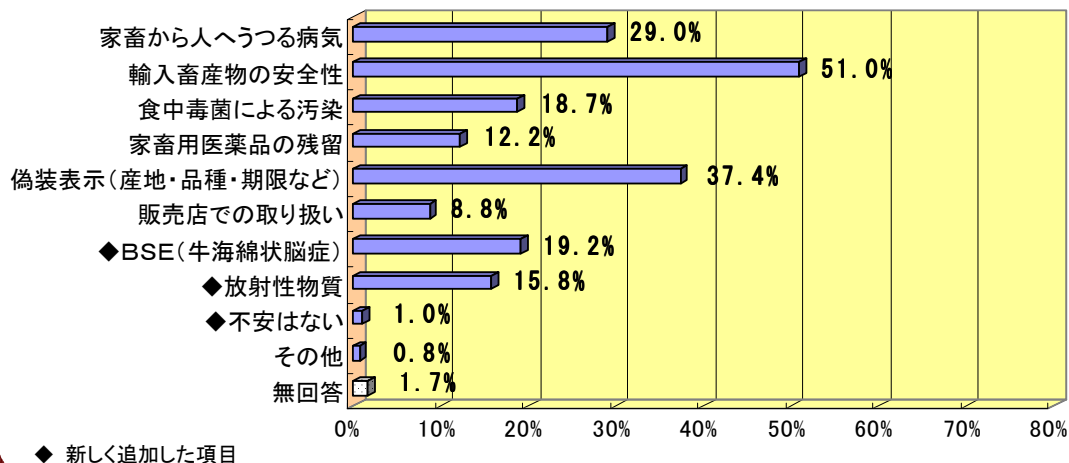
食品の安全性に対して「不安である」と答えた人（765人）に、農産物における不安要因と聞いたところ、最も多いものから順に、「輸入農産物の安全性」57.4%、「農薬の残留」49.9%、「偽装表示」30.2%となっています。なお、この3項目の順位については、過去3回の調査でも同様の結果となっています。

また、今回の特徴としては、新たに「遺伝子組み換え作物」12.7%や「放射性物質」23.3%を加えたことで、多くの項目の割合が前回より減少する中、「食中毒菌による汚染」（H21:5.1%→H24:10.7%）と「販売店の取り扱い」（H21:3.1%→H24:7.3%）に対する不安が増加しています。

問3. 問1で「①非常に不安である」・「②やや不安である」と答えた方で、畜産物（肉類・卵・乳製品など）を購入する際、次にあげる項目で特に不安を感じているものはどれですか？（2つ以内選択）

問3. 畜産物における不安要因

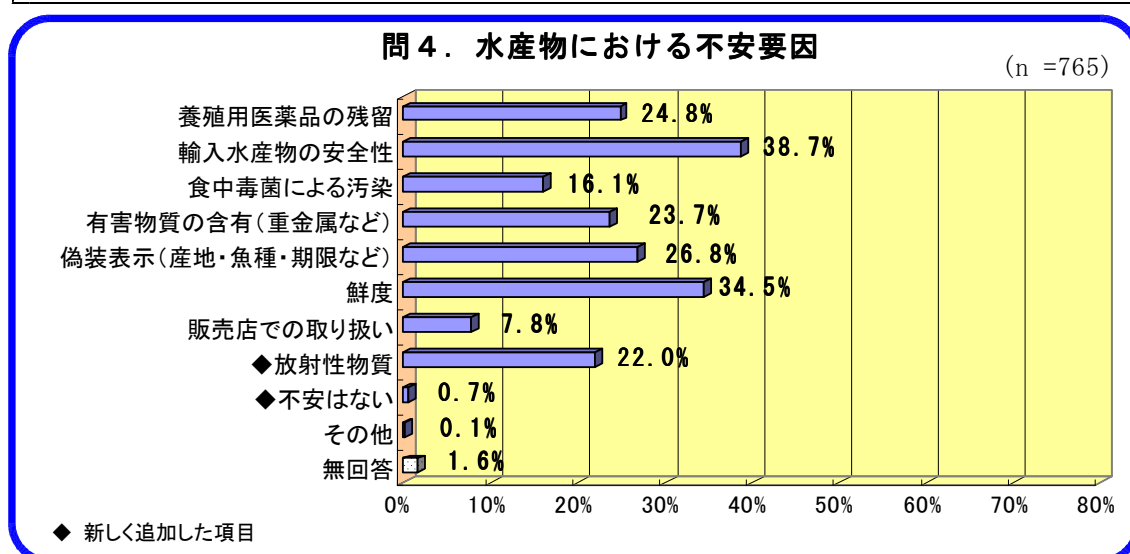
(n =765)



食品の安全性に対して「不安である」と答えた人（765人）に、畜産物における不安要因を聞いたところ、最も多いものから順に、「輸入畜産物の安全性」51.0%、「偽装表示」37.4%、「家畜から人へうつる病気」29.0%となっています。なお、この3項目の順位については、過去3回の調査でも同様の結果となっています。

また、今回の特徴としては、新たに「BSE（牛海綿状脳症）」19.2%や「放射性物質」15.8%を加えたことで、多くの項目の割合が前回より減少する中、「食中毒菌による汚染」（H21:10.9%→H24:18.7%）と「販売店の取り扱い」（H21:6.0%→H24:8.8%）に対する不安が増加しています。

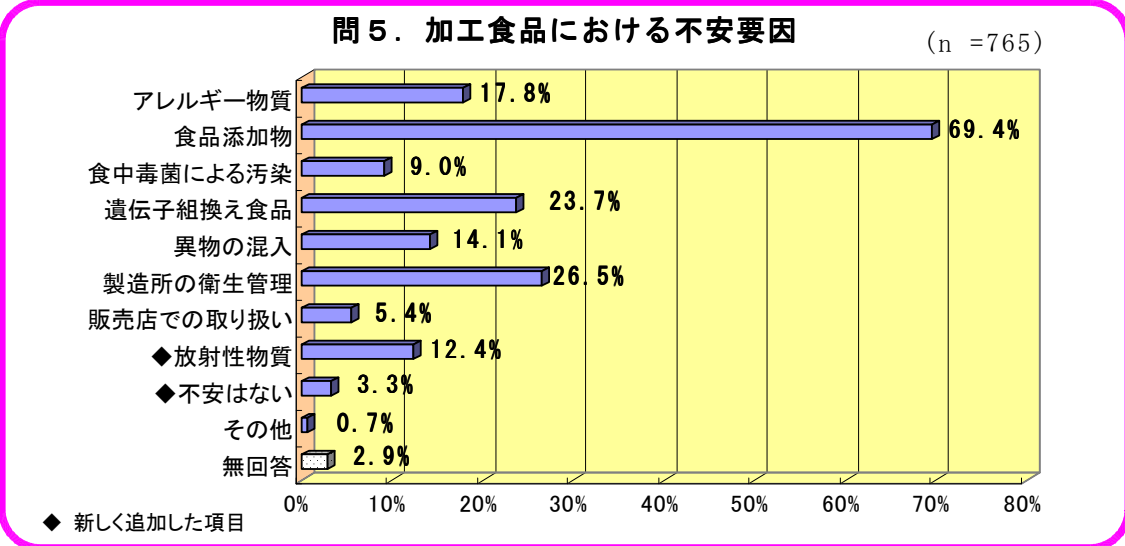
問4. 問1で「①非常に不安である」・「②やや不安である」と答えた方で、水産物（魚介類・水産加工品など）を購入する際次にあげる項目で特に不安を感じているものはどれですか？（2つ以内選択）



食品の安全性に対して「不安である」と答えた人（765人）に、水産物における不安要因を聞いたところ、最も多いものから順に、「輸入水産物の安全性」38.7%、「鮮度」34.5%、「偽装表示」26.8%となっています。

今回の特徴としては、新たに「放射性物質」22.0%を加えたことで、多くの項目の割合が前回より減少する中、2番目に多い「鮮度」に対する不安が、前回調査から大きく増加（H21:21.7%→H24:34.5%）するとともに、「食中毒菌による汚染」（H21:11.2%→H24:16.1%）も増加しています。

問5. 問1で「①非常に不安である」・「②やや不安である」と答えた方で、上記以外の加工食品（麺類・菓子・調味料など）を購入する際、次にあげる項目で特に不安を感じているものはどれですか？（2つ以内選択）

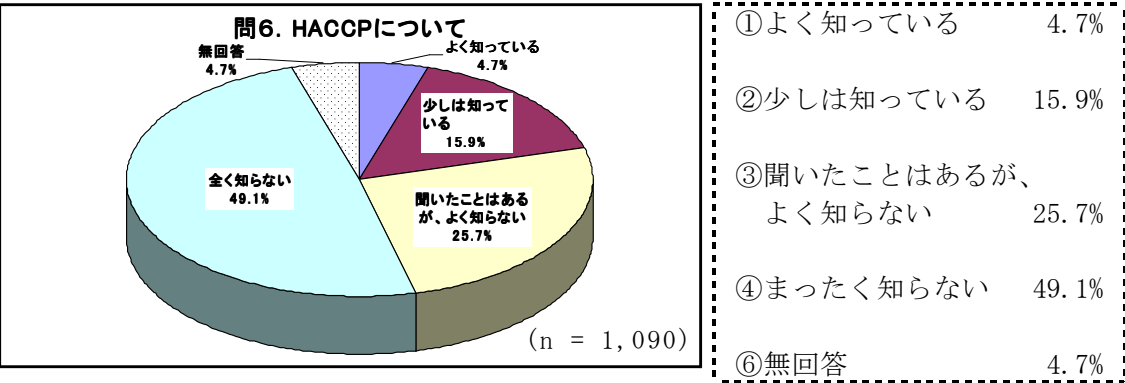


食品の安全性に対して「不安である」と答えた人（765人）に、加工食品における不安要因を聞いたところ、「食品添加物」が69.4%と他の項目を大きく引き離しており、過去3回のアンケート調査でも同様の傾向を示しています。なお、2番目は「製造所の衛生管理」26.5%、次いで「遺伝子組換え食品」23.7%となっています。特徴としては、「アレルギー物質」に対する不安が増加（H21:12.1%→H24:17.8%）し、「遺伝子組換え食品」に対する不安が調査ごとに減少（H15:46.0%、H18:42.8%、H21:32.8%、H24:23.7%）しています。

また、今回新たに加えた項目の「放射性物質」は12.4%となっています。

(2) HACCPについて

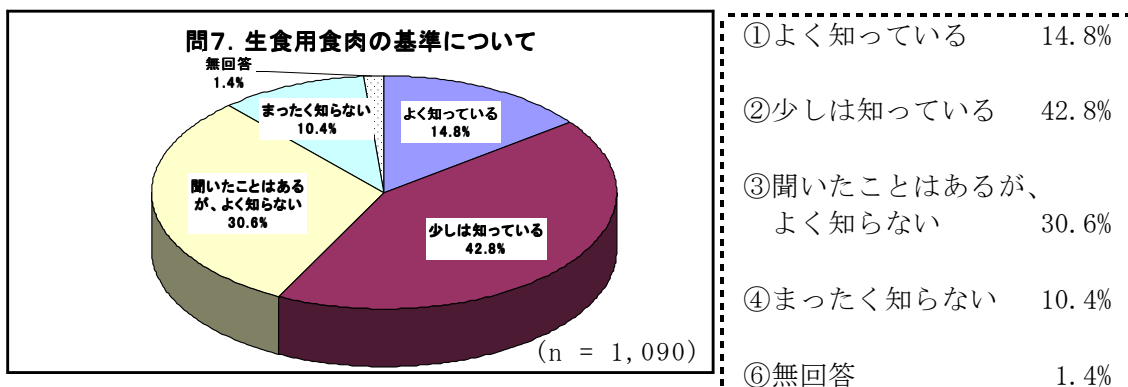
問6. HACCP（ハサップ）について知っていますか？（1つ選択）
 [HACCPとは、安全な食品を生産するために、特に重要な生産工程を特定し、集中的に管理する衛生管理の方法のことです]



HACCPの認知度について聞いたところ、「よく知っている」と答えた人が4.7%、「少しは知っている」と答えた人が15.9%となり、2つを合わせると20.6%の人が「知っている」と答えています。なお、過去の調査から「知っている」とする人の割合に大きな変化はありません（H15：18.2%、H18：18.9%、H21：18.7%、H24：20.6%）。

（3）生食用食肉（牛肉）の基準について

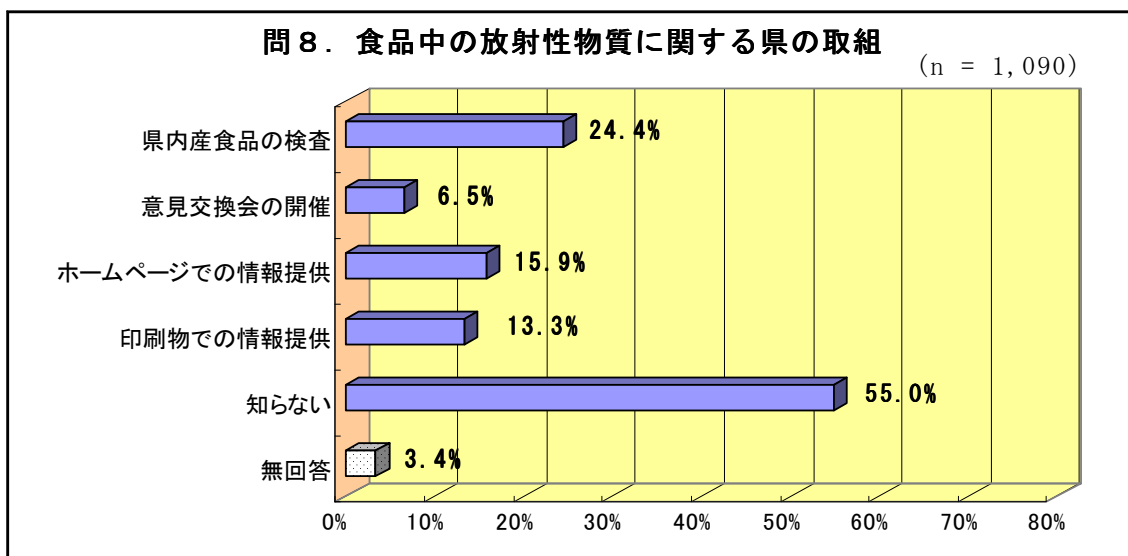
問7. 生食用食肉（牛肉）について、法律で基準が定められたことを知っていますか？
（1つ選択）（新規設問）



生食用食肉（牛肉）の基準が法律で定められたことへの認知度を聞いたところ、「よく知っている」と答えた人が14.8%、「少しは知っている」と答えた人が42.8%となり、2つを合わせると57.6%の人が、基準が定められたことを「知っている」と答えています。

（4）食品中の放射性物質に関する県の取組について

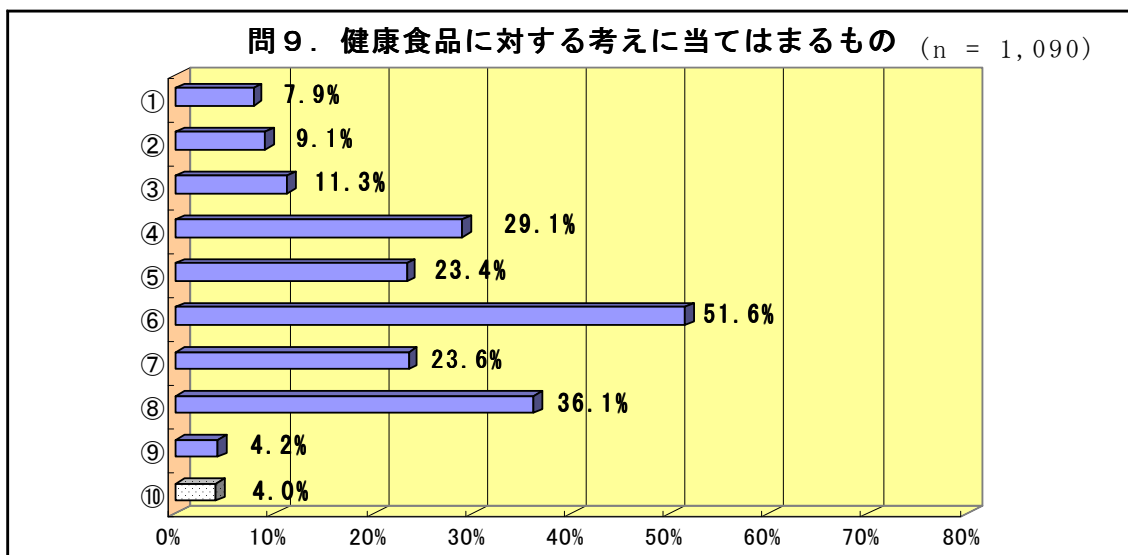
問8. 食品中の放射性物質について、知っている県の取り組みはどれですか？
（複数選択）（新規設問）



県が行っている食品中の放射性物質に関する取り組みの認知度を聞いたところ、55.0%の人が「知らない」と答えています。なお、知っている取り組みとして最も多かったものは、「県内産食品の検査」で24.4%となっています。

(5) いわゆる健康食品に対する考え方

問9. 健康食品やサプリメントについて、考えに当てはまるものは何ですか？
(複数選択)



①食品だから副作用がない	7.9%	②天然・自然成分だから安心	9.1%
③薬のような効果がある	11.3%	④食品に効果を期待するのは誤りだ	29.1%
⑤製造・販売を許可制にすべきだ	23.4%	⑥イメージのみが先行している	51.6%
⑦製造業者への指導が必要	23.6%	⑧成分検査をもっとすべきだ	36.1%
⑨その他	4.2%	⑩無回答	4.0%

健康食品やサプリメントに対する考えについて聞いたところ、最も多かったのは「⑥イメージのみが先行している」の51.6%で、次いで「⑧成分検査をもっとすべきだ」36.1%、「④食品に効果を期待するのは誤りだ」29.1%となっています。

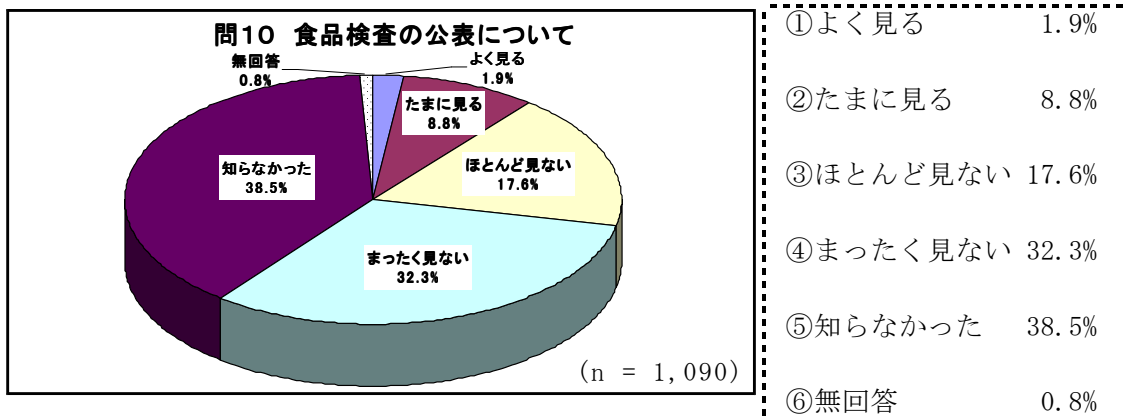
初めて調査を行った前回に比べ、①～③の良いイメージの項目の割合が減少し、④～⑧の良いイメージではない項目や指導・検査を望む項目の割合が増加しています。

H21：①10.2% ②13.5% ③12.1% ④20.2% ⑤21.1% ⑥41.3% ⑦20.8% ⑧30.6%

H24：①7.9% ②9.1% ③11.3% ④29.1% ⑤23.4% ⑥51.6% ⑦23.6% ⑧36.1%

(6) 食品検査結果のホームページでの公表について

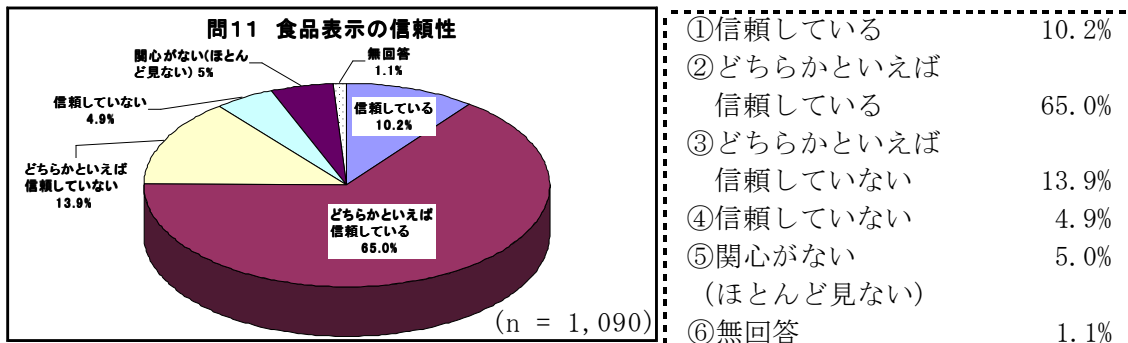
問10. 県では、食品（農畜水産物・加工食品等）について、様々な検査を行い、結果をホームページで公表していますが、ご覧になったことがありますか？
（1つ選択）（新規設問）



食品検査の結果をホームページで公表していることについては、「よく見る」と答えた人が1.9%、「たまに見る」と答えた人が8.8%となり、2つを合わせると10.7%の人が「見る」と答えています。また、ホームページで公表していることを「知らなかった」と答えた人は38.5%となっています。

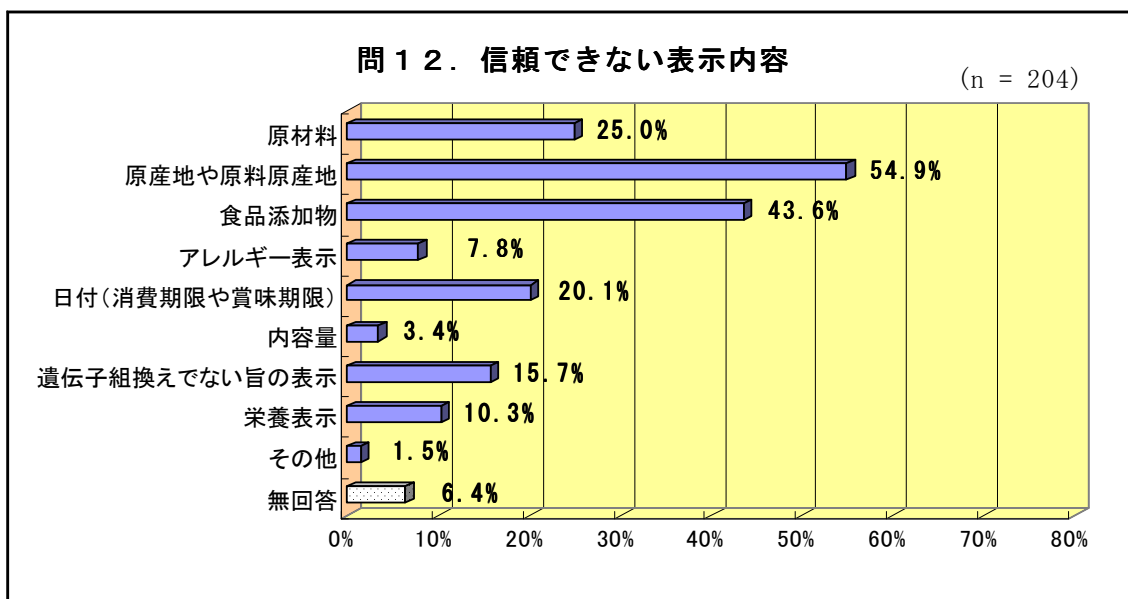
(7) 食品表示について

問11. 食品の表示をどの程度信頼していますか？（1つ選択）



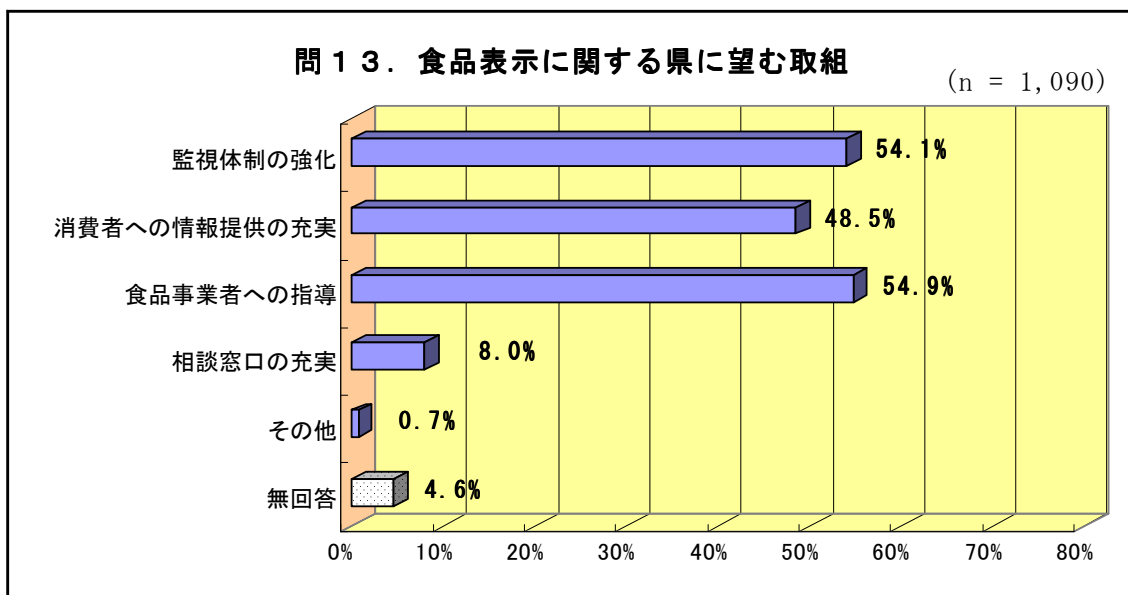
食品表示に対する信頼度は、「信頼している」と答えた人が10.2%、「どちらかといえば信頼している」と答えた人が65.0%あり、程度の差はあるものの75.2%の人が食品表示を信頼していると答えています。なお、前回調査の「信頼している」と「どちらかといえば信頼している」を合わせた割合80.8%と比べると、5.6ポイント減少しています。

問 1 2. 問 1 1 で③・④と答えた方で、食品表示を信頼できない内容は次のうちどれですか？（2つ以内選択）（新規設問）



食品表示を信頼できないと答えた人（204人）に、信頼できない表示内容を聞いたところ、「原産地や原料原産地」が54.9%、「食品添加物」が43.6%で、この2項目が他の項目に比べ高い割合となっています。

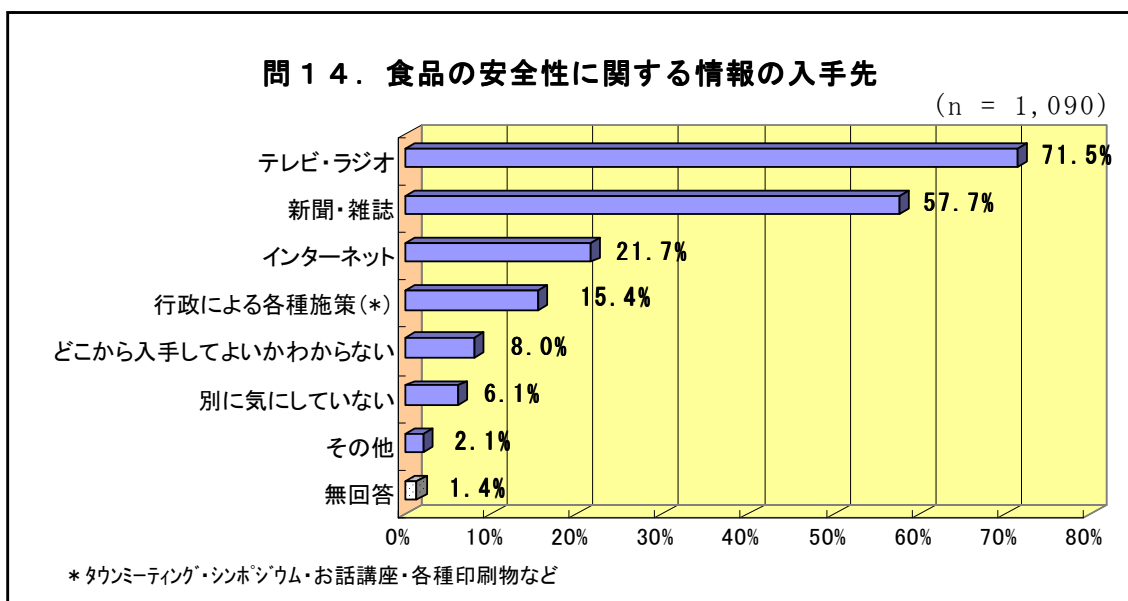
問 1 3. 信頼できる適正な食品表示のために、県に望む取り組みはどれですか？（2つ以内選択）（新規設問）



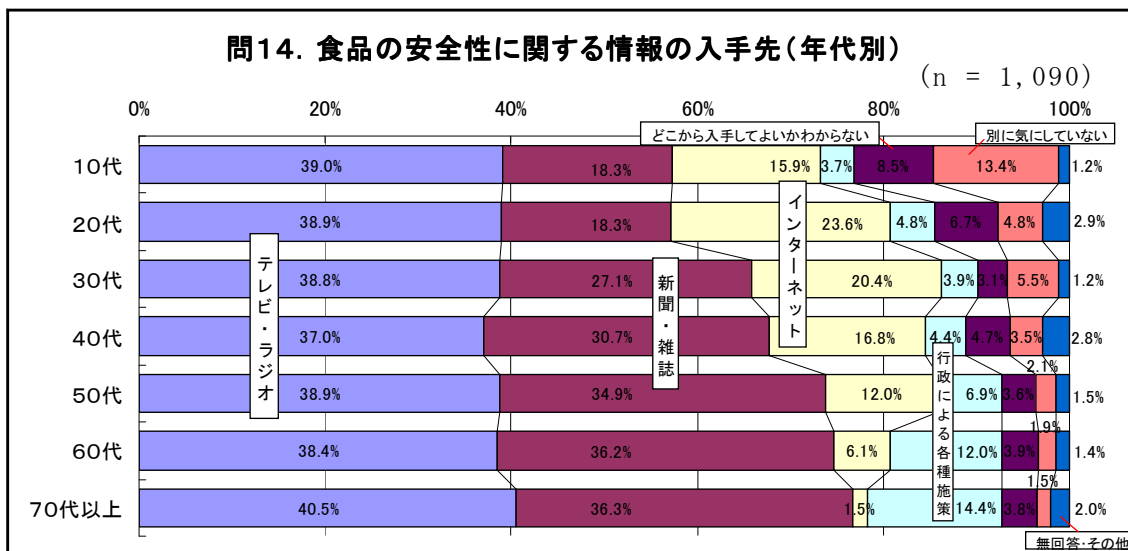
適正な食品表示のために県に望む取り組みとしては、「食品事業者への指導」54.9%、「監視体制の強化」54.1%、「消費者への情報提供の充実」48.5%が、大きな差がなく県に望む取り組みとなっています。

(8) 食品の安全性に関する情報の入手方法

問14. 食品の安全性に関する情報をどこから手に入れますか？（複数選択）



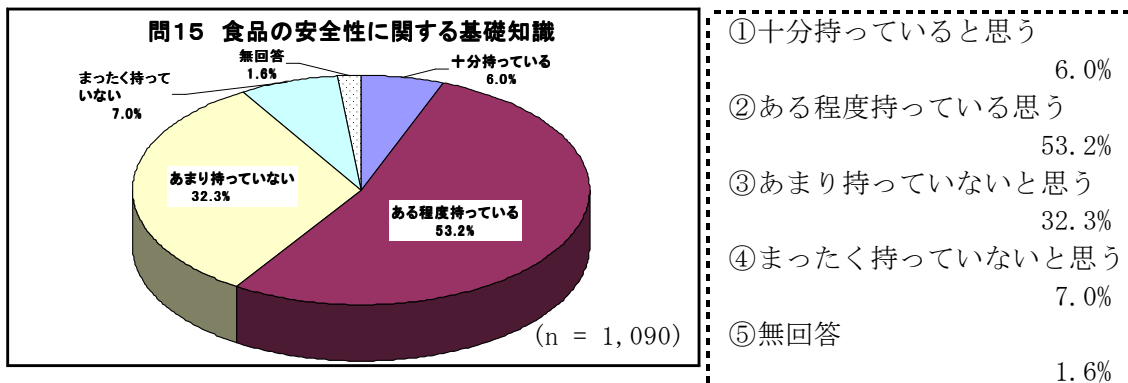
食品の安全性に関する情報の入手先は、「テレビ・ラジオ」71.5%、「新聞・雑誌」57.7%と、この2項目の割合が特に高くなっています。なお、「新聞・雑誌」の割合については、調査ごとに減少しています(H15:71.7%、H18:69.6%、H21:64.7%、H24:57.7%)。また、行政による各種施策が、前回に比べ減少しています(H21:20.7%→H24:15.4%)。



年代別にみると、入手先が「新聞・雑誌」、「行政による各種施策」と答えた人は、年代が上がるにつれ増加傾向にあり、逆に、「インターネット」と答えた人は、20代をピークに年代が上がるにつれ減少しています。そのほか、10代では「別に気にしていない」と答えている人の割合が、他の年代に比べ高くなっています。(上表参照)

(9) 食品の安全性に関する基礎知識及び身につけたい知識

問15. 健康に悪影響を与えないようにするために、どのような食品を選んだ方が良
いかや、どのような調理が必要かについての知識を持っていると思いますか？
(1つ選択)



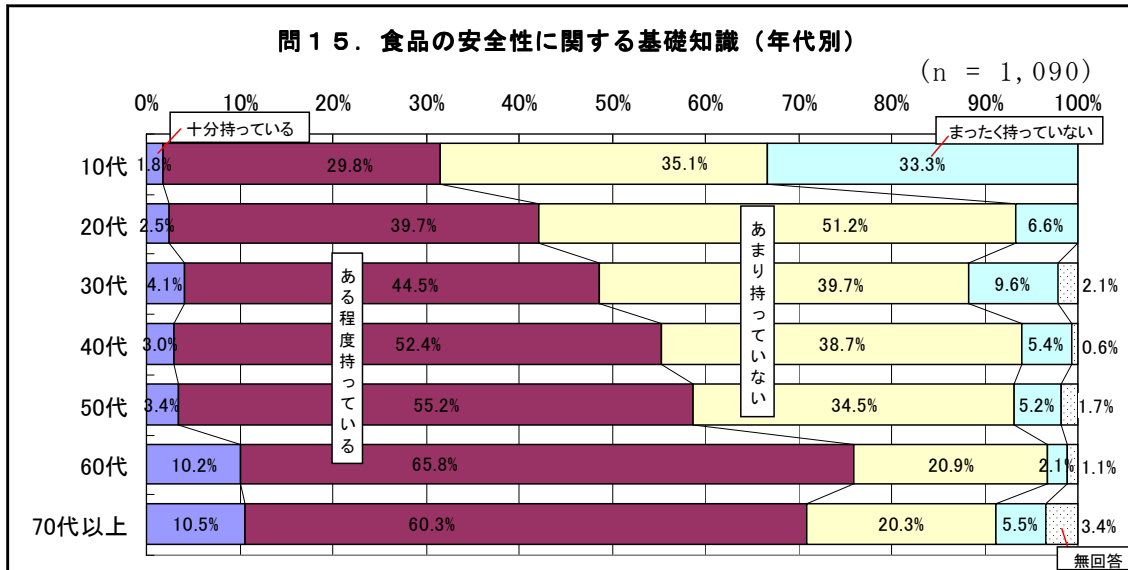
食品の適正な選択などについて『「基礎知識を持っている*1」と思う』と答えた人は59.2%、『「基礎知識を持っていない*2」と思う』と答えた人は39.3%となっています。

過去の調査と比較すると、『「基礎知識を持っている*3」と思う』人の割合が調査ごとに低下 (H18 : 68.0%、H21 : 63.7%、H24 : 59.2%) しています。

*1 「基礎知識を持っている」 = 「十分持っていると思う」「ある程度持っていると思う」の合計

*2 「基礎知識を持っていない」 = 「あまり持っていないと思う」「まったく持っていないと思う」の合計

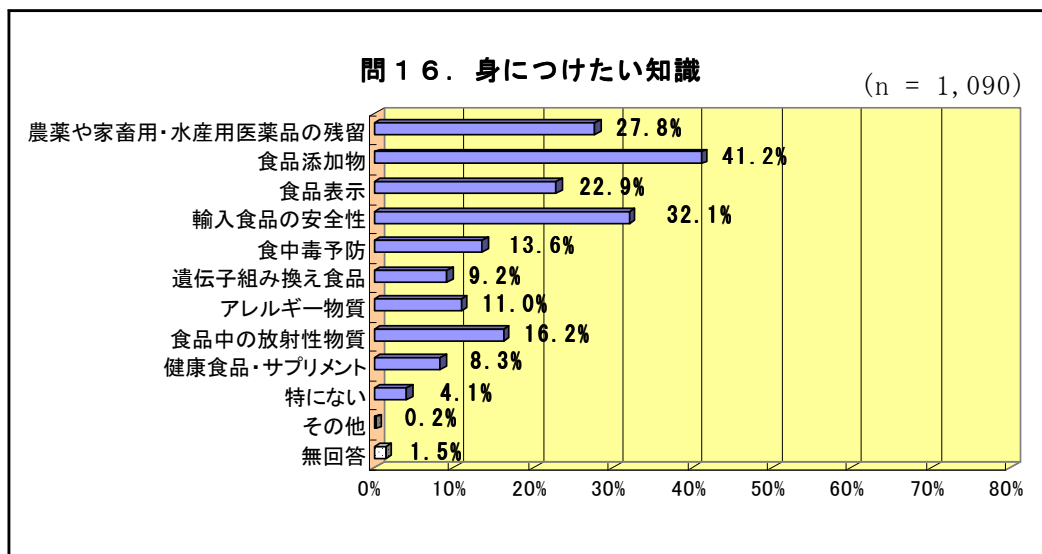
*3 H18・21の数値は、選択肢を「ある→持っている」「ない→持っていない」とした数値。



また、年代別に『「基礎知識を持っている」と思う』と答えた人の割合をみると、
10代 : 31.6% 20代 : 42.2% 30代 : 48.6% 40代 : 55.4%
50代 : 58.6% 60代 : 76.0% 70代以上 : 70.8%

となり、10代から60代までは、年代が上がるにつれ『「基礎知識を持っている」と思う』と答えた人の割合が増加しています。(上表参照)

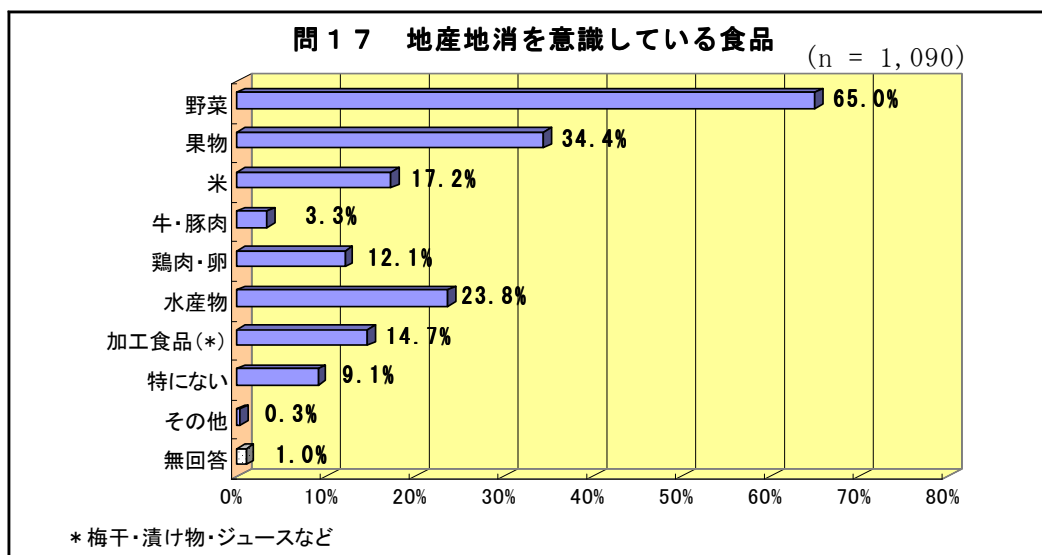
問16. 食品の安全性に関して、今後どういった知識を身につけたいですか？
(2つ以内選択) (新規設問)



今後身につけたい知識としては、最も多いものから順に、「食品添加物」41.2%、「輸入食品の安全性」32.1%、「農業や家畜用・水産用医薬品の残留」27.8%、「食品表示」22.9%と続いています。この結果は、設問の間2から間5にありました農畜水産物・加工食品で不安を感じているものとして上位に上がっていた項目と一致しています。

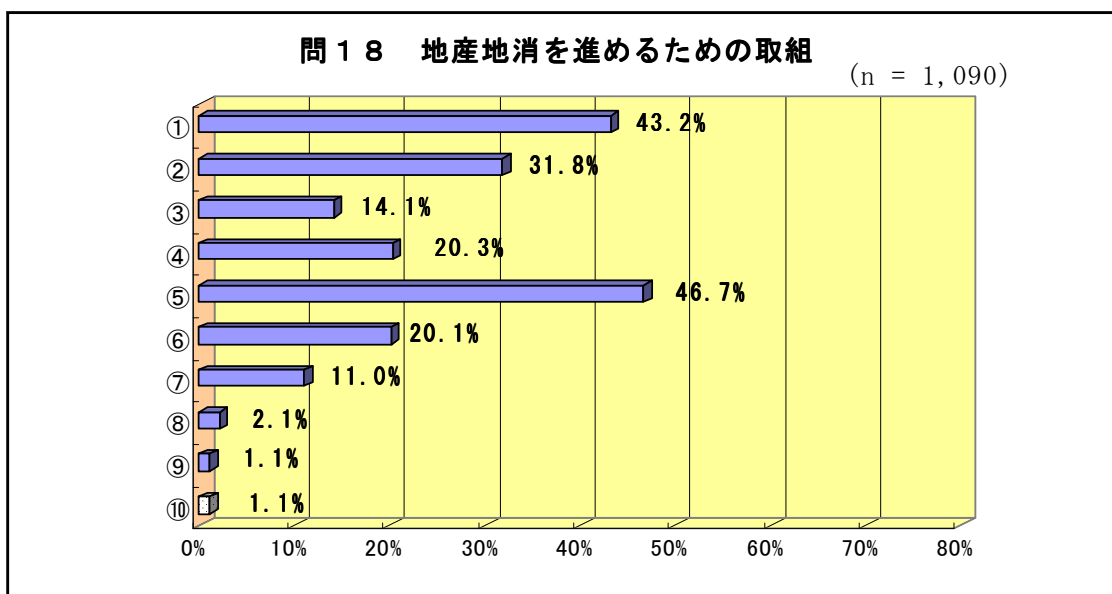
(10) 地産地消について

問17. 地元で生産されたものは地元で消費しようという「地産地消」が近年注目されていますが、特に意識して購入する和歌山県産の食品はどれですか？
(2つ以内選択) (新規設問)



意識して購入する和歌山県産の食品について聞いたところ、最も多かったのは「野菜」の65.0%で、次いで「果物」34.4%、「水産物」23.8%となっています。

問18. 地産地消をより進めるには、どのような取り組みが効果的だと思いますか？
 (2つ以内選択) (新規設問)

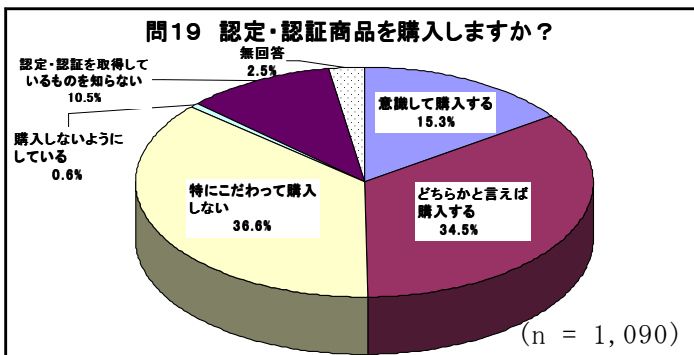


①手頃な価格にする	43.2%
②県産品をPRする	31.8%
③県産品の品目を充実させる	14.1%
④直売所を増やす	20.3%
⑤スーパーなどの量販店で地元産品の取扱量を増やす	46.7%
⑥学校給食に県産品を使用する	20.1%
⑦観光関連施設や飲食店で県産品を使用する	11.0%
⑧思いつかない	2.1%
⑨その他	1.1%
⑩無回答	1.1%

地産地消を進めるために効果的だと思う取り組みについて聞いたところ、最も多かったのは「⑤スーパーなどの量販店で地元産品の取扱量を増やす」の46.7%で、次いで「①手頃な価格にする」43.2%、「②県産品をPRする」31.8%となり、この3項目が上位を占めています。

(11) 認定・認証制度について

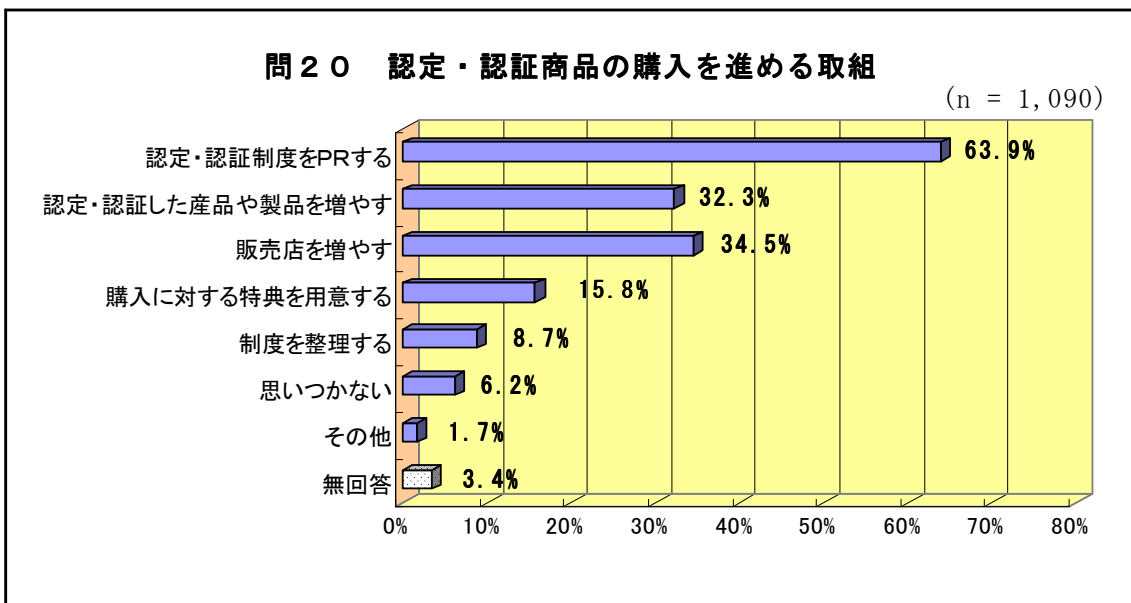
問19. 国や県の認定・認証を取得した商品や業者の製品を意識して購入しますか？
(1つ選択) (新規設問)



- ①意識して購入する 15.3%
- ②どちらかといえば購入する 34.5%
- ③特にこだわって購入しない 36.6%
- ④購入しないようにしている 0.6%
- ⑤認定・認証を取得しているもの知らない 10.5%
- ⑥無回答 2.5%

国や県の認定・認証を取得した商品の購入については、「意識して購入する」と答えた人が15.3%、「どちらかといえば購入する」と答えた人が34.5%となり、2つを合わせると約半数の49.8%の人が「購入する」と答えています。

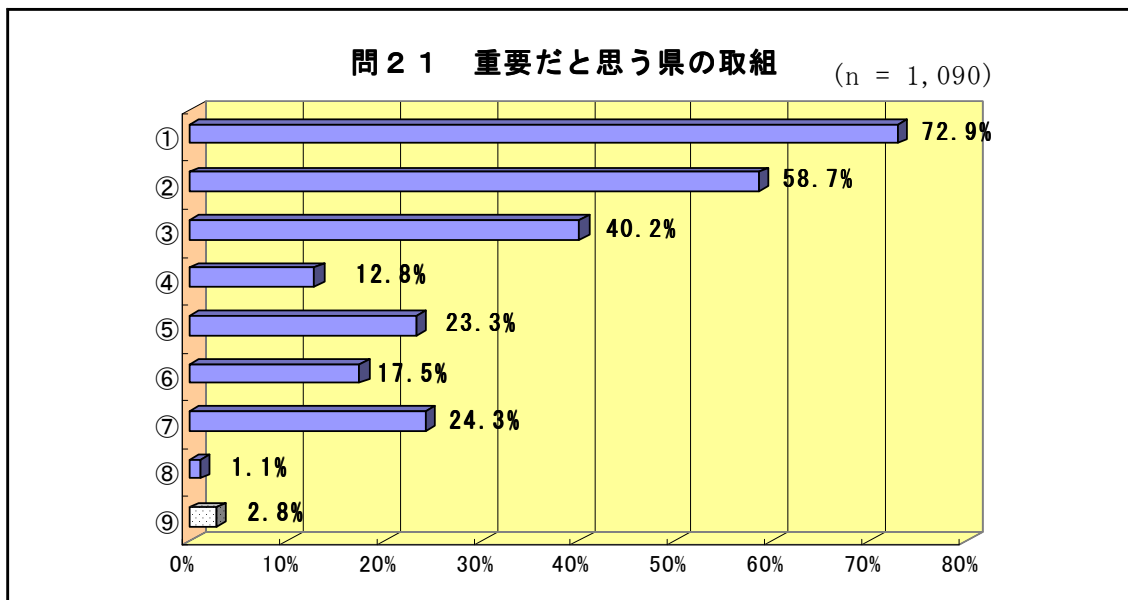
問20. 認定・認証を取得した商品や製品の購入をより進めるためには、どのような取り組みが必要だと思いますか？ (2つ以内選択) (新規設問)



認定・認証を取得した商品の購入を進めるために必要だと思う取り組みについて聞いたところ、「認定・認証制度をPRする」が63.9%と他の項目に比べ割合が高く、次いで「販売店を増やす」34.5%、「認定・認証した商品や製品を増やす」32.3%となっています。

(12) 食品の安全・安心確保のために重要な県の取組

問21. 食品の安全・安心を確保するための県の取り組みとして、何が重要だと思いますか？（3つ以内選択）



①食品検査と結果の公表	72.9%
②製造所・販売所への立入検査	58.7%
③農畜水産物の生産者への指導	40.2%
④消費者からの相談受付	12.8%
⑤業者の自主管理の推進	23.3%
⑥印刷物やホームページによる情報の提供	17.5%
⑦消費者からの意見の収集と施策への反映	24.3%
⑧その他	1.1%
⑨無回答	2.8%

食品の安全・安心を確保するために重要だと思う県の取り組みについて聞いたところ、最も多かったのは「①食品検査と結果の公表」の72.9%で、次いで「②製造所・販売所への立入検査」58.7%、「③農畜水産物の生産者への指導」40.2%となっています。なお、この3項目の順位については、過去3回の調査でも同様の結果となっています。

また、前回調査からは、「②製造所・販売所への立入検査」の割合が大きく減少（H21：69.3%→H24：58.7%）し、「⑥印刷物やホームページによる情報の提供」が増加（H21：12.4%→H24：17.5%）しています。

6 その他のご意見

○ 食の安全について、日頃、感じていることがあれば、どんなことでも結構ですの
でお書きください。

上記設問に対して、257人の方からご意見をいただき、下記の項目ごとに分類したところ325件のご意見・ご提案がありましたので、一部ですが紹介します。

(1) 農薬等に対する不安について

- 野菜・果物などの農薬の使いすぎなど、検査を徹底して頂きたい。少し虫がついている方がかえって安心です。イチゴ等は本当にきれいに販売しておられますが、私達は恐ろしいです。(女性 70代)
- 輸入品はもちろんのこと、国内産にも農薬残留が心配です。何十年先の子供達の健康に害が出てくると思います。(女性 70代)
- 農産物の地元の販売店が増えており、個人の生産者である為に農薬等の不安があります。(女性 60代)
- 農作物の消費について、いつも心配している。果物、野菜等収穫直前でも消毒しているのを見ると、とても心配です。(女性 70代)
- 減農薬食材がもっと手軽かつ低価格で購入できるとうれしいです。(女性 40代)
- スーパー等で、農薬使用の少ない地場の農産物を販売するスペースを広げ手頃な値段で販売してくれたら、お互いによいのではないかと思います。食品の安全性も心から信じられないのが現状です。(女性 60代)

(2) 輸入食品に対する不安について

- 海外からの輸入品に使われている着色料などについて気になります。特に、体に害のある物質など。(女性 10代)
- 日本の自給率は40%台で、輸入に頼っている日本です。外国産は管理等が私達には不明です。国や県がしっかり安全を管理してほしいと思います。(女性 60代)
- 輸入食品はどうして安全性が疑われるのか。信頼しても良いと思う・・・。(女性 10代)
- 私はなるべく国産品を購入する様にしていますが、牛肉などは価格に差があるので、若い人は外国産を選ぶと思う。輸入品に関し、安全性を特に重視して豊かな食生活をしていけたらと思います。(女性 60代)
- 日本の自給率が低下し、輸入食品が増えてきているのが気になる。加工食品など材料をきちんと溯って安全かどうか確認できないような気がして不安である。(女性 50代)
- 中国産の野菜や果物などは、かなり大量の農薬が使われているらしいですが、輸入時、残留農薬や日本で使用禁止されている成分が含まれる農薬が使われていないかなどの検査はされているのでしょうか。国内農家保護のためにも中国産野菜を国産とあまり変わらない値段にすれば、国産を買って安心する人が増えると思う。(女性 40代)

(3) 食品添加物等に対する不安について

- 添加物の明記があっても、それがどのように悪さをするのかはよく分からない。添加物の一覧表があれば嬉しい。(女性 70代)
- 添加物が沢山入ったパン・菓子等、子供が食べる物は気になります。(女性 60代)
- 添加物・放射性物質等一つ一つの食品はクリアしていても何品かの口に入る総計の量が不安です。(男性 70代)
- 加工食品には、とにかく食品添加物が多く使われている。インスタントものではなく、素材に近いような加工食品(調味料など)でも入っている。添加物があまり入っていない商品を探すのが大変である。(女性 40代)

- 添加物は実際に表示されているものよりたくさんあり、毎日たくさん摂取していると思うと怖いです。添加物の少ない物を摂取するのはなかなか時間的にも難しく、値段も高いのでどうするべきか難しいところです。(女性 30代)
- 加工食品（特に袋菓子、インスタント食品など）は種類も多く、幼児などは沢山与えると成長過程に与える悪影響（摂取量にもよりますが）はないのでしょうか。よくスーパーで親子連れの子供を見かけ、子供（幼児）が棚から取ってきて母親のかごにいろいろ入れているのを見かけます。親はそのまま子供に与えるのでしょうか。(男性 70代)

(4) 生食用食肉について

- 基本的に生肉は危険だと思う。今の世の中の人、お店で出されているからたくさん食べても大丈夫みたいな軽い考えが多い。自分の身や子供の安全を考えれば、(生を) 食べすぎるとお腹をこわすことぐらいわかるのに・・・。(女性 20代)

(5) 食品中の放射性物質について

- 今まであたり前のように何気なく買っていた食品ですが、東日本大震災があつてから産地など意識しています。(女性 40代)
- 地産地消を心がけています。なるべく県産品を購入、使用したいと思います。今特に意識することは放射性物質について不安を感じます。水産物で回遊魚は産地表示ではわかりにくいと思います。(女性 60代)
- 学校給食が不安で食べさせることができない。特に放射性物質。丸ごと検査ではなく、きのこ、魚、海藻、みかんなど、高い値が出るものを調理前に検査し、5ベクレル以上は使わないようにすべき。(女性 40代)
- 3.11の地震によって不幸にも起こってしまった放射性物質について気になります。特に、小さな子供達の食べ物への関心事についての研究を進めてほしい。(女性 30代)
- 放射性物質に関して漠然とした不安をなくすためにも、正しい知識をわかりやすく情報提供してほしい。(女性 30代)

(6) 健康食品について

- 健康食品とサプリメントはどのような違いがあるのでしょうか。コンドロイチンやグルコサミン等高額で販売されている物もあるが、ほとんど効果がないと言われるのを聞いたことがあるが、どこまで真実なのか等不信感がある。食に対する安全、体や心に与える影響など、若い人たちも学ぶ機会を持ってほしい。(女性 70代)
- サプリメントのコマーシャルが多いが成分検査等して本当に効果があるのか、ある程度ルールが必要ではないかと思う。信頼度にかける。(男性 70代)

(7) 食品の検査体制に対する要望等について

- 原発事故による放射性物質のより精密な検査、情報公開を望みます。セシウム以外にも測定してほしいです。遺伝子組み換え食品のリスクについてもきちんと証明されてから、流通させてほしいです。食の安全はとても大事だと思うので、子供のためにお願いします。(女性 20代)
- 表示だけでは信用できないので、抜き打ち検査等数多くやった方が安心度が高くなる。食品に携わる人の免許、許可証の申請時の審査をもっと厳しくしたほうがよいと思う。(女性 60代)
- もし TPP に参加して、外国から農産物や果物が入ってきたとき、厳しい検査ができるか、自国の作物等どうなるか心配。(女性 70代)
- 消費者がわからないものの検査をして安全性を確保してほしい。放射性物質、遺伝子組換え、残留農薬、BSE、食品添加物等。(男性 60代)
- 世界のいたるところから食品が集まってくる。輸入に関しては、検査を厳重にして安全な食品を提供してほしい。(女性 60代)

(8) 正しい情報発信への要望等について

- 放射性物質、食品添加物等の影響について、テレビ等メディアからの情報が多く、正しい情報を得られていないように思う。関心は高い事柄なので、正しい情報提供に力を入れてほしい。(女性 20代)
- 県では食品の様々な検査を行い結果をホームページで公表とのことですが、パソコン等できない我々には見ることや、知ることができません。(女性 70代)
- 高齢者にもできるだけわかりやすく理解しやすい方法で、情報を伝えてほしいと思います。(女性 70代)
- 日頃からあまり意識していないことが多いですが、もっと消費者に情報を与えてほしい。(女性 20代)
- 食の安全性についてあまり意識せず過ごしていました。知らずにいたことが怖いです。県のHPで食の安全性についての事もあるとは知らず、今回知れてよかったです。今後は意識してHPのチェックもしたいと思います。(女性 20代)
- パソコンをしないので、ホームページの閲覧ができません。もっと消費者にわかりやすい方法で、情報がわかればうれしいです。食品表示でしか情報が入らないのが残念です。(女性 40代)
- 普段食品の安全についてそこまで意識はしていないが、ニュースや新聞等でいろいろ言われていけば、嫌でも気になってしまうと思う。しかし、そこで言われていることの多くはひどく曖昧なことばかりで、さっぱりわからないことが多い。安全か危険かの基準をきっちりして、食品検査と結果公表の徹底を希望します。(女性 30代)

(9) 食品表示に対する不安について

- 表示を信じて購入しているが、表示をどこまで信じて良いか不安。安全基準値はそれぞれにあるが、食事として多く食べた時に、個々の安全基準値で安全なのか。(男性 50代)
- 表示を信用して購入するので、産地偽装をなくしてほしい。(女性 50代)
- 最近偽装問題等が多くニュースなどで見る事があるので、食品表示を気にかけて購入するものの、その表示自体信用はあまりできません。将来子ども達が安心して食生活を送れる様なシステムを確立して欲しいと思います。(女性 20代)
- 食品添加物の表示が消費者にもっとわかりやすく表示され、原料原産地の表示や栄養成分表示、アレルギー物質表示等は健康面を気にする人には貴重な情報となるので、適正な表示をお願いします。(女性 70代)
- 食品を購入するときは、生産者や原材料、日付、その他いろいろな表示を信頼して購入する。消費者を裏切らないように、食の安全を確保してください。不安を無くすために。(女性 60代)
- 全ての食品に言えますが、特に畜産物で偽装表示がみつかりますと、全ての肉類に対し信用できなくなります。(男性 70代)
- 食品の生産地等の表示の偽装がニュースになっていることから、何が信じられるかわからないなと思っています。消費者は見分けられないので、徹底的に摘発していただきたいです。(女性 20代)

(10) 生産者・事業者のモラル向上に対する意見について

- 野菜・果物等の県の農作物はもっと良いものだとしてPRして、直販(直売所など)も大いにすばらしいです。朝買い物をして、夕食に使用しようと思った時、野菜などいたんでいるのがっかりです。業者のごまかし(鮮度を保つ薬などあるのでしょうか)にだまされてしまいます。(女性 70代)
- 以前外食をした際、絆創膏を指に貼り、そのままの手で寿司を握っているスタッフを見かけました。衛生的にも見ている方にも大変気持ち悪かったです。食品に対する規制等があっても、調理する人がこのような状態では食中毒の危険性は高いと思います。その店がきちんと衛生教育がされているか、管理されているかは見えないことが多いので、不安に感じることがあります。(女性 20代)
- 消費者は安全を信じて購入するしかないので、生産者の良心、国、県の認定、認証に頼るしかない。(女性 70代)

- 生産者として、消費者の身になって、これなら大丈夫と自分自身が胸を張れる物作りをしたいと思います。(女性 70代)

(1 1) 消費者育成に関する意見について

- 仕事柄、食品表示に関する講習会に参加したことがありますが、業界関係者のみではなく、広く一般に対しても同様の講習会を開催することで、「かしこい」消費者の育成につながると思います。(男性 40代)
- 自らももう少し主体的に情報収集する意識が大切だと思います。また、個人が求めれば情報が得られる体制づくりも必要かと。(女性 20代)
- 色々な情報が飛び交うので、どの情報を信じるか(自分はどうか考えるか)というところが大切だと思っています。あまり偏った意見に流されないようにしたいと思っています。(女性 30代)
- 仕事と日々の生活に追われ、その中に家族の「食」があるのだが、忙しい時間の中、大事な栄養面等きちんと理解せず、子供達の好きな物に偏ってしまう傾向があります。もっと、きちんと理解したい、しなければと感じた。(女性 40代)
- なかなか意識をしっかりと持たないと情報を見たり、勉強できないと思います。子供のころからもっと興味を持てるような学習ができれば、理想かと思います。(女性 50代)

(1 2) 地産地消について

- 地産地消は大切だと思います。特に産直販売など新鮮なものが多く、よく利用します。(女性 40代)
- 地産地消を広げていく消費者の意識改革が必要だと思います。値段だけでなく健康を考えての食材選び等。(女性 50代)
- 和歌山県産の魚は、他県のものに比べて割高な感じがします。手頃な値段にすればよく売れると思います。(女性 70代)
- 地産地消をもっと進めれば、安全性に不安な外国製品に国内・県内産品が押されることがなくなるのではないかと。農家をしており、生産物に県エコファーマー認定制度のマークを貼っているが、消費者にあまり浸透しておらず何のマークかとよく聞かれる。もっと周知して欲しい。(男性 70代)
- 最近地産地消が増えていますが、和歌山県産というより、もっとしぼった〇〇地域の方が美味しく感じられるように思います。(男性 30代)
- 地産品をなるべく購入するようにしているが、価格が他産地の物の方が安く、そちらの方を買う人も多いと思うので、公で地産品を補助するなり色々工夫したら良いと思う。(女性 60代)
- 基本的に地産地消を心がけております。生産者の顔が見えるのは安心材料の1つだと思います。水産物も近海で旬の物であれば鮮度もほぼ確実です。(女性 60代)

(1 3) 認定・認証制度について

- 食品に認定されたマークがあれば安心して購入できますので、この制度は続けて頂きたいです。外国からのお菓子やお茶など日本で販売しているということは、安全性が確認されているから販売しているのでしょうか。(女性 60代)
- 食の認定・認証制度の事をあまり知らなかったのもっと一般にPRしてもらったとしても役立つと思います。(女性 50代)
- 食品関係に関する認定・認証制度がこのようにある事を初めて知りました。これからはマークを見て参考にしたいと思います。(女性 50代)
- 食の安全について、年々不安が高まるばかりです。今回、食品関係に関する認定・認証制度についてはっきり認識しましたが、今後の品目数の増加に期待します。(女性 30代)
- 国産のものや、添加物のないものを選んでいますが、何かいつも信用できない気分が付きまといまいます。もっと認定・認証の信頼性を強化、透明化し、消費者が信頼できるレベルまで、また、食品関係に関する認定・認証制度の一覧等、普段買い物をするスーパーやドラッグストアなどに、張り出すのがよく目についていいとも思います。なかなか広報やインターネットは見ません。(女性 40代)

- プレミア和歌山は広報などでよく目にするので、意識するようになったが、他のマークはほとんど知らなかった。「和歌山のもの」というので安心、安全な気がするので、もっとマークに注目してよいものを選びたいと思う。(女性 20代)

(14) 行政施策への要望等について

- 事件があって初めて「食の安全」について注目するが、普段は販売しているものは安全だと感じている。行政が主体でなく、あくまでも業者自らが常に「安全意識の向上」と「情報の提供」を行う様なシステム作りが必要と考える。(男性 60代)
- 国の方針そのものが食の安全や国内での食糧の自給率向上から離れて行っている様に思います。それぞれの県単位でこういったことに(もちろん個人も)取り組んで行くしかないと思います。(女性 40代)
- 本当にいい物を提供しようとしている生産業者をミシュランガイドのように格付けし、全国にPRしていけばよいのではないのでしょうか(味も含めて)。(男性 40代)
- 各市町村単位で食の安全懇談会、PR等を充実してほしい。認定、認証を取得した生産者、業者の見学会を実施してほしい。(男性 70代)
- 偽装表示のニュースをよく新聞やテレビで耳にするので、立入検査や罰則の強化等の取り組みに力を入れてもらいたいです。(女性 20代)
- 輸入食品はどうしても不安があります。特に中国産は……。農薬の残留も多少気になります。行政や大手販売店等が時々検査して結果を公表して、安全宣言をしていただければありがたいと思います。時々でも構いませんので。(男性 50代)
- 消費者の不安をあおるような報道が目につく。あまり科学的根拠のないものは気にしないように指導すべき。(男性 30代)

(15) その他の意見

- 60才の後半です。今は健康なので安全性の高い物や安心できる物を自分の目と足で確かめて買い物できていますが、今後自分で買い物に直接出掛けられなくなった時の事を考えると不安があります。(女性 60代)
- 食品に危険なものが入っていたら健康に重大な危害がでてしまうと思う。検査で通ってきていても短期的危害な微生物や細菌が増える事による食中毒などの健康被害があって不安です。(男性 10代)
- 毎日食べる食品だからこそ安全・安心面で自分では気を付けていたつもりでしたが、まだまだ知らない事が多々あり、このアンケートを通して県のホームページ等で公表してくれている事も知る事が出来ました。これからは活用させて頂きたいですし、もっと食の安全・安心に関心をもって生活していきたいと思いました。(女性 30代)
- 集団食中毒事件が発生しTV等で取り上げられた事によって、より食中毒防止の為の調理や保管法に気をつけるようになりました。(女性 30代)
- 知識はあまりないですが、子供の事を考え国産を購入、添加物不使用のものを極力購入するようにしていますが、価格的に徹底できない部分もあります。(女性 30代)
- 生活費の中で食費を削る家庭が多いのが現実のところ……。良い物(食品)を追求すると金額が高くなるが、良い物を多く買える流れになれば、皆、健康で送れるのにと感じます。安いけれどそれは良い物、たくさん欲しいです。(女性 40代)
- お米を友人から購入しています。安心して美味しいと言われ食べていますが、生産者の安全性がわかる方法が欲しいです。(女性 60代)
- 人間の体は食べ物で出来ているから、美形にとらわれず生産者が食の安全性(健康)を重視し、生産者と消費者が相互信頼できる様な食べ物であってほしい。情報源のホームページをみられるようにならないと……。残念です。(女性 60代)
- 食の安全制度に関係あるのかもしれませんが、包装が過剰だと思います。(女性 60代)
- 未来を背負う子供達のために、安全・安心な食生活が送れるようにしてほしいと思います。(女性 70代)
- スーパーのそうざい売り場で販売されている商品の衛生について不安に思います。(女性 30代)

- 国産、外国産に関わらず、少しでも信用を失うような事があれば、全体のイメージも低下するので、対策をもっと公にしたり、しっかりやっておいたほうがいいのではないかと思う。(女性 10代)
- 食の安全についてあまり関心がなかった。漠然と安全が守られていると思っていました。今後は一つ一つ注意しながら購入したり、県政の PR に関心を持っていきたいと思えます。(女性 70代)
- 市場に出回っている食品については元々安全だという先入観から買っているが、それ以上に地産の物、認定を受けた品について感心を深めようと思っている。(女性 70代)
- 食材を購入する際は、産地や品種等を一応見ているが、外食ではほとんど気にせず口に入れているので、普段は避けているようなものも知らないうちに食べているのかなと思います。(女性 30代)
- 地産の直売所では生産者の氏名が書かれていて、安心します。虫食い、傷みがあれば取り替えてくれるし、苦情も直接伝わります。車があれば、そういうところへもいけるが、一人暮らしの高齢者では近くのスーパーで購入するしかありません。スーパーにもそういうコーナーがあればいいなと思います。(女性 70代)
- 近年偽装表示のニュースが立て続けに報道されたので、食への意識が高まったように思います。地元の活性化などと高尚な事は考えていませんが、安心して美味しく食べられる物を、と考えると、直売所で地産の旬のものを買うようになりました。外食産業でも、行政が衛生管理の指導などを一生懸命なさってくれているとは思いますが、やはり自分の目で見たわけではないので不安があり、あまり外食はしないようにしています。(女性 20代)
- 日本で生産、販売されている食品等は安全であると思っているので、あまり意識していません。基準や検査が厳しいと信じているからです。(女性 50代)
- 私たちは直接口にする物でありながら安全性については行政や生産者の表示等に頼るしかないので、ルールをきちんと公平にして安全の確保にしっかり取り組んでいただきたいと思えます。(女性 40代)
- 安全、安心と表示や、例えば米などは産地表示されているが、結局のところそれが本当に正しいのか不安ながらも信用して買わざるをえないので、ごまかしやウソをつかなくても生産者も生活に困らないような世の中に正していかなければ本当の食の安全・安心など、ないに等しいと思えます。正直者が馬鹿を見る時代から、やはり正直者は成功できるそういう世の中になるように県、国は力をいれてほしい。(女性 40代)